

# 看護部

Nursing Department



## その人らしさの尊重とチーム医療のコーディネートを重視し、患者さん一人ひとりに行き届いた看護を提供

健康増進と疾病予防、健康の回復、苦痛の緩和という看護部の基本責任を果たすため、人々を全人的にとらえ、看護の専門性をもって主体的に働きかける。その具体化のために、患者中心性、安全性、有効性、適切性、効率性、公平性を活動方針としている。

### 2015年度看護部目標

『看護の本質と自らの実践の質を問い直し、前進する』

1. 自ら考え、行動し、誰もがリーダーシップを発揮するプロフェッショナルとして自ら考え、自ら行動する
2. 看護のプロセスが『見える』記録を書き、常に実践を振り返る
3. 高度急性期を担う看護師として、EBN (Evidence Based Nursing 根拠に基づく看護) を推進する
4. 全ての病棟でPNSを推進し、病棟移転・病棟再編を皆で成功させる
5. 自らのキャリアパスを描き、やりがいをもって働き続ける

## 業務内容の特徴と実績

### 看護の質の向上

継続的で一貫性のある看護をめざして看護の標準化を図るとともに、いかなる場面でも看護の基本的役割が発揮できるジェネラリストの育成を図っている。また、安全で質の高い看護を提供するため、専門的な活動を推進するスペシャリストを確保、育成。高度な専門性が必要な領域にはその分野に特化した技術・知識を有した専任看護師を配置し、以下の分野で活躍中である。

#### ①がん看護

がんサポートチームでの緩和ケアのコンサルテーション活動、化学療法や放射線療法を中心としたがん治療の看護を現場のエキスパートナースとともに実施。

#### ②感染管理

専任の感染対策者および院内感染対策チーム (ICT) の一員として、感染対策を組織横断的に実施。

#### ③退院支援

患者さんが退院後も安心して療養継続ができるよう、どのような医療管理・看護が必要かを考え、患者さんの自己決定支援ができるよう、必要な教育・コンサルテーションを実施。

#### ④褥瘡対策

褥瘡専従管理者として、褥瘡対策チームの中心的役割を担い、部門の壁を超えた横断的な活動を展開。

#### ⑤治験コーディネーター

治験患者用クリニカルパスを作成し、ケアの実践と治験の円滑な実施に努めるなか、契約治験件数も増加の傾向にある。

#### ⑥看護システム

電子カルテシステムの中で、患者さんの療養生活支援に必要な情報を集積、整理するとともに、情報をチームでタイムリーに共有し、看護業務の標準化・効率化と、誤認防止など医療安全の向上を推進。

また、特定の看護分野について豊富な経験と高度な知識を持った専門看護師(6名)・認定看護師(20名)を配置している。

### 看護師の研修

看護師として生涯成長していくためのマンガローブ型キャリアパスを構築し、ジェネラリストとして足腰を鍛えるための卒後3年間の段階的研修や一人ひとりの目標に焦点をあてたレベルアップ研修、エキスパート研修などを準備。また、独自のクリニカルラダー認定制度を有し、キャリアサポートに生かしている。

### 働きやすい職場づくり

ボトムアップ型の組織づくり、超過勤務の削減、有給休暇、夏季休暇の取得推進、子育て支援、12時間二交替制、PNS導入、など、働きやすい環境を整え、離職防止に努めている。

## その他の取り組み

### 京都府看護職連携キャリア支援事業

「機能分化された医療・介護施設間における連携に強い看護師養成プログラム」

院内に『看護職キャリアパス支援センター』を設置し、特任助教1名を配置して、地域医療機関への長期派遣事業を開始した。この事業を通して大学病院と地域医療機関との人材交流が活性化し、どの医療機能からスタートしても全ての看護職が足腰の強いジェネラリストとして成長できる仕組みを構築するとともに、地域包括ケアの担い手として、連携に強い看護師が中心となり、ますます地域医療を牽引していくようにことを期待している。医療機関の垣根を越えて、「まもり・とどけ・つなぐ」看護職を育成することが京都府全体の、ひいては日本全体の看護力の向上につながるものと信じています。

